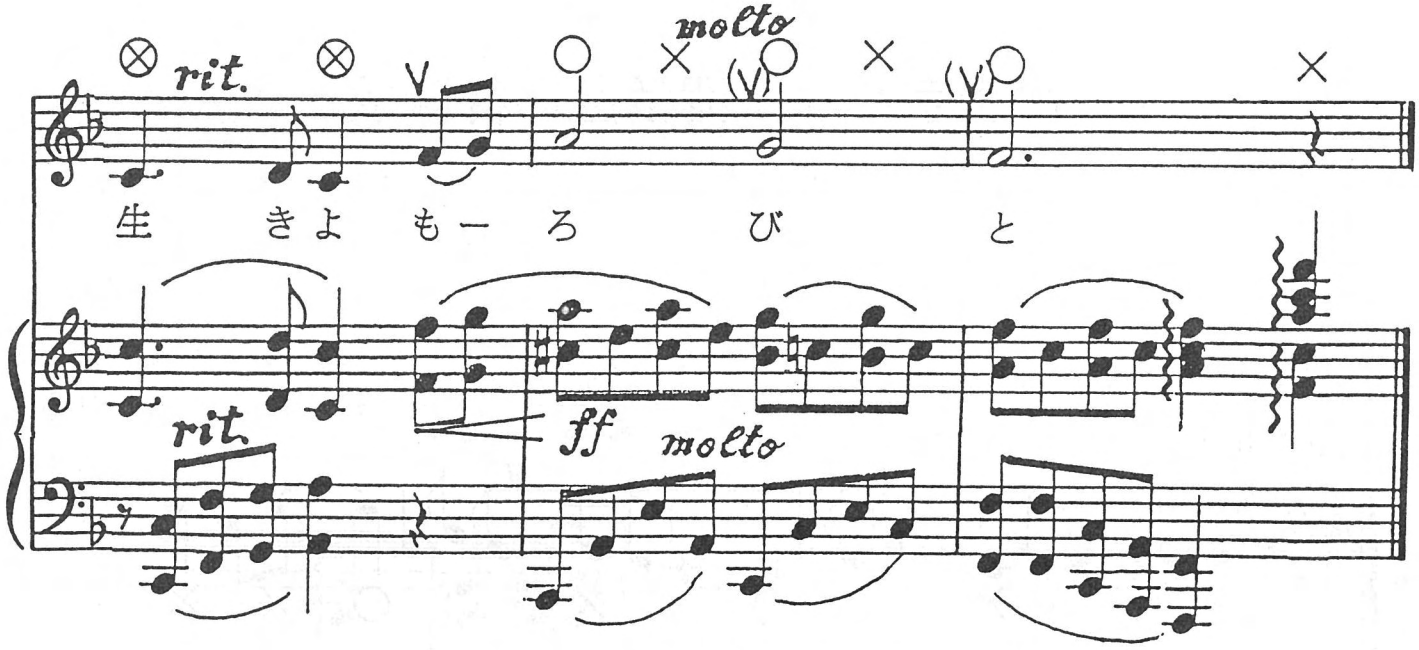
選擇本願念仏集奉戴 八百年記念

選擇集の御詠歌

中村康隆猊下　御作
松　濤　基　作曲

心にしめて 落着いて



『選擇本願念仏集』奉戴八百年記念

選擇集の御詠歌

み仏の　本願弘誓(ぐぜい)を　おろがみて　念仏一途(いちず)に　生きよ諸人

（浄土門主・総本山知恩院門跡第八十六世心誉上人中村康隆猊下御作）

『選擇本願念仏集』は、「往生のためには念仏が一番尊い行である」という内容を説かれたものです。お念仏は、だれでもいつでも出来る易しい行であり、またどの行よりも功徳が勝(まさ)っており、仏の願いに合致する行です。その上、一声の念仏でも、み仏の無量の功徳が備わっています。どんなに時代が悪くても、善根功徳が積めなくても、お念仏は仏様の我が子を思うような大慈悲心がいよいよ働いて、必ずお救いいただける行です。尊く強く大いなる仏願力を頼み、念仏すれば、現在より未来世にいたるまで大利益をこうむります。その上、往生の本懐を遂げて、神通自在の徳を備え、清らかな法楽がいただけることが誓約されています。六方の諸仏は、念仏の尊い働きが真実であることを総出で誉め讃えられ、証明され、さらに念仏の行者を護ることを誓っておられます。このみ仏様が、選りすぐって下さった（選択）、阿弥陀仏の願いとお救いのお約束（本願）の大功徳の行（念仏）で、仏教の究極が南無阿弥陀仏であることを明らかにされました。

大意　阿弥陀仏の大いなる仏願力を心からいただいて、念仏一途に共々に力強く明るく尊く生かされて往きましょう。

ポイント注意

- 普通の速度で、付点音符を急がずに。「念仏いちず」を頂点に、一語一語しっかり、最後の「もろびと」は力込めて一音一音ゆっくりと。